



国では、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを、今春、現在の「新型インフルエンザ等感染症」から季節性インフルエンザと同等の「5類」に移行する方針を表明しました。（2023年1月21日毎日新聞）

**アトリエ・ゆうは不登校や引きこもりの親や子を支援している非営利団体**です。

細心の注意をしながら、コロナ禍でもできるところで、ネットも活用しながら続けています。昨年11月6日には「大宮アートフルゆめまつり」に合わせて、それこそ最後の「蚤の市」を行いました。その時、プレールームの親御さんが「この場所は子どもが来られる唯一の場所ですから、無くなったら困ります！」と言われたことが胸に残っています。

現在の新しい活動としては2021年6月から助成金を受けて始めた「**大人カフェ**」～**食べて、話して、つながろう**～が、毎月第4土曜日に定着してきました。ひとりでも、親子でも、どんな世代の方でもどうぞです。

従来からの活動として毎月第2火曜日は「**事務局会議**」を開き、第4火曜日は「**ゆうニュースの発行作業**」をします。

毎週水曜日の**プレールーム**、第2土曜日の**コーヒーサロン**も継続しています。

現在アトリエ・ゆうには小中学生の子どもは来ていませんが、**親の会**は第2、4火曜日、第2、4土曜日に対応出来るようにしています。時々ネットや電話で小中学生の問い合わせや見学の方もありますが、その時は内容をよく聞いて「ぷらっとほーむさいたま不登校ネットワーク」、「さいたま市子ども家庭総合センターあいぱれっと」など、関連の場所やグループを紹介しています。

不登校について、ゆうニュースでもお知らせしましたが、オンライン上の**仮想空間「メタバース」**を使った支援を埼玉県戸田市が、2022年7月から行うと発表しました

さいたま市では22年度から6ヶ所で「**不登校等児童生徒支援センター（通称 Growth）**」で一人1台端末を使って、様々な学習支援等を行っています。

アトリエ・ゆうのホームページは青年が担当していますので、どうぞこちらもご覧いただけると嬉しいです。

いつでも、だれでも、気軽に来られる居場所としてスタッフ一同、気持ちを新たにお待ちしています。そしてマスクを外してお話できることを願っています。

**NPO 法人ゆうの樹**は精神障害の方の支援事業として、メンバーさんとコスタリカ産コーヒーの製造販売・古書販売・水耕栽培・喫茶店などを継続しています。コロナ感

染が拡大のため、メンバーさんの在宅ワークを増やして、事務所が密にならないように工夫しています。今年も相変わらずよろしく願います。

**不登校について**、文科省の発表では2022年の小中学生の不登校児童生徒が24万人を超えたと報道されました。過去最高の数字でさらにこの数字も氷山の一角ともいわれています。

私が小学生だった約70年前、疑いもしないで学校に通った私が、登校拒否の子どもたちに関わることになるとは思いませんでした。初めのころは逆に「なぜ行けないのだろう」「どうして、お腹が痛くなるのだろう」と思いながら、子どもたちの話や親御さんの話を聞いているうちに、「学校にも問題があるのではないか?」と思うようになってきました。どの県にも親の会が次々とでき、全国ネットワークもできました。

どうも日本の教育が上から目線で、ひとり一人の個性を引き出すのではなく、一斉教育がされていることに問題があるのではないかと、そんなことを思っていました。

折しも1月9日の成人の日に教育社会学者の内田 良さんがNHKラジオで「**2分の1成人式**」について話されているのを聞きました。勉強不足の私は「2分の1成人式」という言葉を初めて聞いたのです。それが学校行事として行われているとのことで、余計に気になりながら聞きました。

20才の成人式の半分の10才になる4年生を対象に行う学校行事とのことです。まず生の声を、と小学生、中学生、高校生、社会人、親御さん、元教師、現教師の方々に聞いてみました。内容は親への感謝の手紙を書く、自分の20才に向けて書く、親から小さいときのことを聞いて書く、小さい時の写真を持ってくる等々、学校によっていろいろ違うようです。クラスでしたり、全体でしたり、学校によって違いますが、しない学校もあります。

賛否両論があることは承知しながらも、今、置かれている子どもの状況は変わって来ています。親子関係も良好ばかりでないこと、シングルのある家庭があること、虐待を受けながら生活していること、在日の方も多くなっていること、などその立場にならざるを得ない子どものことを考えると、一斉にすることで子どもの心を傷つけてしまいかねないと思うのです。

文科省の「不登校に関する調査研究協力者会議」の最終報告書に「**誰一人取り残されない学校づくり**」とありますが、今学校が問われているのは、そのことではないでしょうか。

子どもを大事にすることが、未来を開く大きな鍵になると思うのです。

重い話を長々として失礼しました。

皆様のご健康と平和な未来を願って、今年もどうぞよろしくお願い致します。  
(本居 麗子)